

## 奥地 正教授退任記念論文集の刊行にさいして

経済学部長 山 田 彌

奥地 正先生の定年によるご退職にさいして、『立命館経済学』において退任記念論文集を特集し、ここに刊行することになりました。

奥地先生は1999年3月31日をもって、定年により立命館大学教授の職を退かれます。先生は1973年4月に立命館大学経済学部で助教授として着任されました。それ以来今日まで26年の長きにわたって、立命館大学及び経済学部の発展のために尽力してこられました。この間の先生の多大のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、ここにささやかながら記念論文集を編集・刊行し、先生に贈呈することになりました。

奥地先生は1933年に和歌山県新宮市でお生まれになり、1954年に京都大学農学部に入学されました。1958年3月に同学部農林経済学科を卒業され、引き続き同大学大学院農学研究科（農林経済学専攻）に進学して研究者としてのスタートを切られました。そして5年後には大学院博士課程を単位取得終了され、翌1964年から9年間財団法人林業経営研究所に研究員として勤務されました。73年4月に本学経済学部助教授に就任、翌74年には教授に昇任され、以来26年の長きにわたって日本経済論の担当者として学部および大学院の教育に当たられる一方、研究面では林業・山村問題に関する研究を主軸とされつつ、さらには土地・住宅問題や国土・環境問題にまで幅を広げて研究を進めてこられました。

奥地先生のご研究の一端を紹介すれば、一つは資本制生産様式のもとの林業地代の形成に関するきわめて精緻な理論的なご研究であり、二つには戦後日本の高度経済成長下の林業・山村問題、とりわけ国内林業の解体と再編成過程における林業労働についての丹念なご研究です。前者については、「いわゆる二範疇林業の地代論的意義—戦後林業地代論批判への序章—」（1966）を皮切りに、「育成的林業における差額地代」（1967）に至る10編に余る論考を矢継ぎ早に『林業経済』に発表されております。また後者については、「林業労働の現段階」（1971）、「過疎下の林業・山村問題」（1973）、「戦後日本資本主義と林業・山村問題の展開構造」（1974）、「国有林における労働組織の形成と展開—東北・秋田国有林を中心に—」（1974～1979）などの論文を経て、先生が主な編者として出版された『日本経済と林業・山村問題』（東大出版会、1978）として結実しました。この間、1973年には博士論文「国有林における労働組織の形成と展開—東北国有林を中心に—」によって京都大学から農学博士の学位を取得されています。三つ目は土地・住宅問題についてのご研究であり、「転換期の住宅問題」（1980）、「いわゆる土地国有化の理論的基礎」（1982）、「日本経済と住宅政策の今日的課題」（1983）などの一連の論文があります。四つ目は国土・環境問題についてのご研究であり、「環境問題と林業・山村」（1983）や「現代日本の国土開発政策」（1985）から、「現代日本の国土・環境問題と森林資源」（1987）を経て、「持続可能な開発」と日

本の国土・環境問題」（1995）や「日本の林業・農山村と国土・環境問題」（1997）にいたる一連の論文があります。ここでは、地球環境の保全と両立する持続可能な開発という視点から国土開発政策の現状が鋭く批判されるとともに、林業・山村の再生の課題が解明されています。

1990年9月から1年間は、先生は国外留学制度によって英国に滞在され、サセックス大学で研究課題「英国における国土開発・環境政策と環境保全運動」について研究に従事され、国際的な研究交流を果たされるとともに、英国各地に赴かれて旺盛な視察・調査活動を行われました。その成果の一端は「ナショナル・トラスト運動—その源流・英国と日本の今日—」（1993）に纏められています。

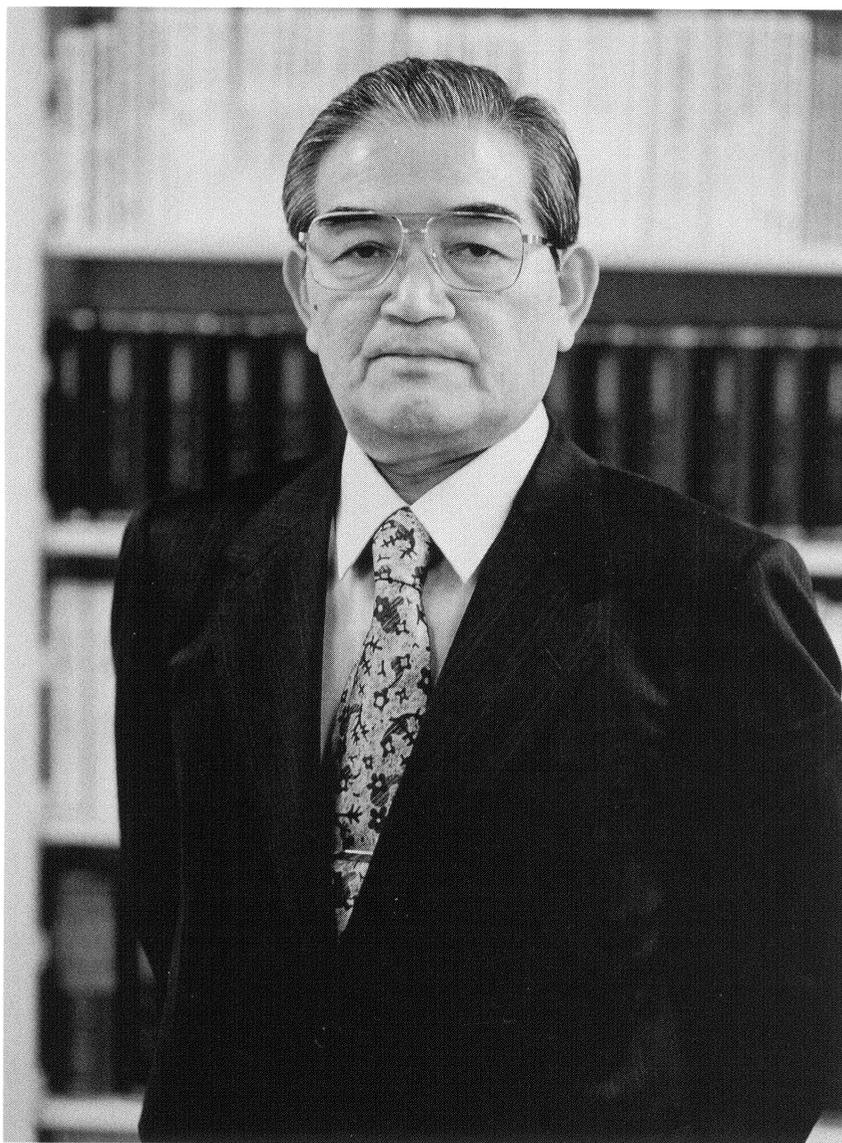
奥地先生は、学内行政の面では1979年度に経済学部主事、80年度に同調査委員長、87・88年度には二部協議会委員長、94・95年度には経済学部長・同研究科長と要職を歴任され、この面からも今日の立命館大学興隆の基礎を築いてこられました。とりわけ、94・95年度のびわこ草津キャンパス（BKC）への学部移転の課題に際しては、学部長として立派にリーダーシップを発揮され、新コース制の導入など学部専門カリキュラムの刷新、理工および経営両学部とのジョイントによる新コース（文理総合インスティテュート）の創設など、新たなキャンパスでの経済学部新展開の基本的骨格づくりの先頭に立たれました。また、環境マネジメントインスティテュートの立ち上げに際して、検討メンバーの一員として重要な役割を果たしてこられました。

21世紀を目前にした今日、これからの大学における研究と教育、そして経済学と経済学部のあり方について広く深い問い直しが必要となっていると思われます。また、21世紀を目指して経済学部の一層の改革をも考えなければならないことは言うまでもありません。このような時に、奥地先生がご退任になることは経済学部にとって誠に残念なことでありますが、これも時の定めとあれば致し方ありません。私ども経済学部教授会は、先生の長年に及ぶご功績に対して名誉教授の称号をお贈りすることによって、私どもの微意を表したいと考えます。

幸い先生はお元気であり、ご退職後も本学の特別任用教授に就任していただく予定ですから、今後とも先生のお教えを受ける機会は残されています。

今後とも一層のご指導とご鞭撻をお願い申しあげるとともに、先生のますますのご健勝とご発展を心から祈念して、送別の言葉とさせていただきます。

1999年2月



奥地 正教授 近影